教育相談

科目ナンバリング　ESS-220
教職　　選択　　2単位

中里　　敦

1. 授業の概要（ねらい）

これまで教育相談センターのカウンセラーに始まり、小・中・高校のスクールカウンセラーとして勤務し、教員とは少し違った角度から学校現場に関わって来ました。その中で見聞きしていること、感じていること、苦労、うれしかったことなどを交えながら教育相談に必要な知識をお伝えします。カウンセリングの技法にはさまざまなものがあります。私はブリーフセラピー（短期療法）の1つである解決志向アプローチ（問題の原因よりすでにある解決や相談者の持っている力を有効活用することを重視する方法）を軸に相談業務を行っています。とてもシンプルな技法で学校現場でも使いやすい技法です。人数が多いとペアワークやグループワークを通しての実践的な実習は難しいですが、何とかエッセンスだけでもお伝えできればと思っています。

2. 授業の到達目標

①教育相談に関する知識の大枠をつかむこと。面白い分野なので今後も勉強していくための入口にしてください。
②経験が浅い内はできるアドバイスにも限りがあり、特に自分より人生経験のある保護者との対応には苦慮することと思います。カウンセリングは万能でありませんが、カウンセリングの知識を学ぶことで、こちらが正解を知らないことでも相談を進めていくことができるようになります。この授業だけではとても身につくものではありませんが、雰囲気だけでも感じ取ってもらえればと思っています。

3. 成績評価の方法および基準

主に学期末のテストで評価します。私が授業で話す内容が教育相談の唯一の正解ではありません。必ずしも私の考えに同意してもらう必要はありませんが、テストの際には授業の内容に沿った解答をしているかを重視します。相手の話を聞く訓練だと思ってしっかり聞いてください。また、授業中に書いてもらう意見・感想なども参考にします。

4. 教科書・参考文献

教科書
こちらで資料を用意します。
参考文献
長谷川啓三・佐藤宏平・花田里欧子 編　事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編　遠見書房
津川律子・山口義枝・北村世都 編　教育相談　弘文堂
森俊夫・黒沢幸子　森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー　ほんの森出版

5. 準備学修の内容

この授業で紹介するものに限らず色々な本を読んで、幅広い教養を身につけてください。また授業で学んだ態度・技術で使えそうなものは日常生活でどう使えるか試してみてください。大学を卒業してストレートに教員になるとあまり社会経験のないままずっと人に教えることになります。今のうちにさまざまな経験をして、人間の幅を広げてください。

6. その他履修上の注意事項

かつての教育相談は興味のある一部の先生だけが取り組んでいる分野でした。しかし、生徒のいじめや自殺の問題がクローズアップされ、難しい保護者との対応などが増える中、教育相談的な対応はすべての教員に求められるようになって来ています。事例を通して私がどのように考え、どう対応してきたかをお伝えします。ただ教育相談に唯一絶対の正解はありません。みなさんが現場に出た際には、みなさんなりに悩みながら試行錯誤していく必要があります。その準備としてワークを行い、様々なテーマについてみなさんの考えを書いてもらいます。現場に出てから困らないようしっかりと考え、真剣に取り組んでもらいたいと思います。また、質問したい人は前の方の席に座って積極的に質問してもらえるとありがたいです。

7. 授業内容

【第1回】　・ガイダンス
　　・教育相談とは
【第2回】　・ストレスマネジメント
　　・アンガーマネジメント
【第3回】　・教育相談と心理療法
　　※LMSによる補講（5/4までにupします）
【第4回】　・構成的エンカウンターグループ
【第5回】　・カウンセリングの具体的な技法（解決志向アプローチを中心に）について
【第6回】　・教育相談に活かせるカウンセリングの考え方
【第7回】　・対話以外で関わり
【第8回】　・発達障害の理解
【第9回】　・発達障害への対応
【第10回】　・不登校の理解
【第11回】　・不登校への対応
【第12回】　・いじめ
【第13回】　・非行・虐待・性的マイノリティ等の問題について
【第14回】　・精神医学的諸問題
【第15回】　・まとめと試験